平成 24 年度　事務事業事後評価調書（平成　23　年度事業）

整理番号	10	―	15

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	緑町1号線道路整備事業					
評価者	担当課名		建設水道課	担当係名		土木管理係
	管理職	職名	課　長	作成者	職名	係　長
		氏名	佐　竹　邦　夫		氏名	田　原　慎　也
事業の概要	本路線の状況は、路盤が薄く凹凸路面となっており、通行に支障をきたしていることから、これを解消するため実施する事業であります。					

全体計画	/期間限定複数年度
（平成 23 年度～ 23 年度）	
事業費 国・道支出金	千円
地方債	24,000 千円
その他	千円
一般財源	千円
事業費計	24,000 千円

実施方法	■ 直営	民間委託	その他（　　）
第５期総合計画（前期）	■ 登載事業	非登載事業	優先度 B

事業の位置付け			
政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	
基本施策	#	交通体系の整備	
単位施策	1	道路環境の向上	
事務事業の種類	■	自治事務	法定受託事務
その他計画・根拠等			

事業費 実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
地方債	千円	千円	千円	22,900 千円	千円
その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
雄武町負担額（一般財源）	千円	千円	千円	74 千円	千円
合計	千円	千円	千円	22,974 千円	千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	道路利用者、道路
【抱える課題やニーズは】	凹凸路面による走行の不快感。
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	快適な通行と道路環境の向上。
【その結果、どのような成果を実現したいか】※成果＝目的	道路利用者の快適な道路環境の確保。

望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）

道路整備延長

指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
① 道路整備延長／道路整備延長の実績	目標年度	平成23年度
	目標値	129.3 m
	実績値	129.3 m
	達成度	100.0 %
②	目標年度	
	目標値	
	実績値	
	達成度	%

内容（どのような手段で何を行ったか）	
①民間業者による設計及び工事の実施	入札により民間業者に設計及び工事を発注し道路整備を実施した。

3　事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	道路利用者が通行する道路環境を確保することは、町が担う必要がある。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 ■達成 □ほぼ達成 □下回る	当該事業を実施したことにより、快適な道路環境が確保された。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 ■事業費抑制 □人員削減 □時間短縮・作業軽減 □その他	本事業を実施したことで、快適な通行が確保されたことは、効率的であると判断する。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □受益者負担がある □受益者負担がない □受益が一部に偏る ■その他	道路環境の向上が図られたことは、不特定多数の道路利用者に対して公平であると判断する。

4　総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
事業が目標どおり達成された。		

今後の展開方向
（Action）

終了		
平成23年度事業終了。		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5　その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）